メディアセンターの主な出来事（平成 24 年度）

メディアセンター本部

1.「中期計画 2012–2015」の作成

前年度より検討を進めてきた「メディアセンター中期計画 2012–2015」を完成させた。「紙媒体資料と電子媒体資料の適正な蔵書構築とサービスの提供」,「キャンパスの多様性およびメディアセンター全体としての協調を意識したサービス・運用の最適化」,「図書館経営の強化と組織面の見直し」,「教育・研究・医療活動に則した支援と学内外における知の生産と応用への貢献」という 4 つの柱の下に今後取り組む課題をまとめた。

2. 大学図書館電子学術書共同利用実験プロジェクトの開始

2011 年度で終了した電子学術書利用実験プロジェクト（慶應実験）の成果を生かし，複数の大学図書館が参加する共同利用実験を開始した。慶應以外に 4 大学（名古屋大学，神戸大学，奈良先端科学技術大学院大学，福井大学）から実験参加があり，3 月に開催したシンポジウムでは，各大学図書館での実験の成果報告を始めとし，協力出版社・企業による作業・検討の進捗報告のほか，パネルディスカッションを実施した。今後さらに参加大学の規模を拡大する予定である。

3. 新たな海外研修の実施

英国東部のノリッジにあるセインズベリー日本藝術研究所図書館を拠点とした，職員の英国研修を開始した。9 月下旬からの約 3 ヶ月間 1 名を派遣し，同図書館での研修のほか，近郊のイーストアングリア大学図書館等で研修を行った。

4. 蔵書目録遡及入力事業の継続

目録が未入力である三田メディアセンター資料群の遡及入力を前年度に引き続き実施した。また，図書館システムの多言語対応化，研究環境整備を目的とする外部資金の獲得という背景の下，中国語図書の遡及入力事業を開始した。

三田メディアセンター

1. 慶應義塾図書館開館 100 年事業

1912 年に義塾創立 50 年事業の一つとして開館した慶應義塾図書館（図書館旧館）が，2012 年に 100 年を迎えたことを記念し，様々な事業が行われた。

特に 4 月 28 日に開催された慶應義塾図書館開館 100 年記念式典には，来賓，歴代館長，名誉教授をはじめ約230名の出席があった。式典後はザ・カフェテリアで懇親会も催された。

またこの式典に合わせて新館展示室では「グーテンベルク聖書—世界初の印刷聖書—」展を開催し（4/5～28），式典にあわせた 4/25～28 の 4 日間に限り『グーテンベルク 42 行聖書』の実物を展示した。この展示会の入館者は 6,000 名を超える盛況ぶりであった。

なおこれらの様子は『三田評論』2012 年 6 月号（No.1157）に掲載されている。

他の記念事業としては，以下のものが行われた。

・『慶應義塾図書館史稿—1970–2012』刊行
・慶應義塾図書館開館 100 年記念展示（8/29–10/13）入場者 4,068 名
・慶應義塾図書館施設整備指定寄付金の発足
［年度末寄付総額 3,031,000 円］

2. 第 73 回私立大学図書館協会総会・研究大会

8/30～31 の 2 日間に渡り，標記大会の事務局（会場校）を務めた。テーマは「個性化の戦略—創造する大学図書館」とし，2 日間で述べ約 800 名の参加者を迎えた。総会，研究大会は南校舎ホール，意見交換会はグランドプリンスホテル高輪・プリンスルームを会場とした。

3. 図書館文献シリーズの再開

1969 年に刊行が開始された「図書館文献シリーズ」は，2001 年の 30 号（「江戸・明治 京都の天気表 5」）をもって休刊となっていたが，約 12 年ぶりに 31 号として「慶應義塾図書館所蔵　奈良文庫目録」を発刊した。今後も，特定の分野の資料群を包括的に調べるツールとして，継続的に発行していく。

4. アーカイブ担当・アーカイブ室の設置

貴重書に当たらない古文書や寄贈された個人資料，アルバムなど，通常とは異なる資料を専門的に扱う部署としてアーカイブ担当が新たに置かれ，7 月からアーカイブ室の運用を開始した。

5. 和装本研修の実施

所蔵する古典籍を扱うための基本的な知識を習得することを目的とし，①文学部と斯道文庫の教員による講演（3 回）および②貴重書室職員による実習（4 回）の 2 本だてとした和装本研修を企画し，人事部が募集した部門別ブロック研修に採択された。参加者は①が各回 30 名前後，②は人数を絞ったため各回 10 名前後であったがメディアセンター外からの参加者もおり，いずれも有意義な研修となった。

6. 寄贈資料の受入（主なもの）
 ・宮島正治氏(昭62政)より岩波書店ファクシミリ版「トリノ＝ミラノ時祷書」「ボルソ・デステの聖書」（叔母宮島澄子元青山学院大学教授蔵書）
 ・井関利明名誉教授よりミニチュアブック　約1,700点
7. その他のトピック
 ・塾員入館券の料金改定（500円→1,000円）
 ・Webサイトリニューアル（12月）

日吉メディアセンター

1. 読書推奨
 (1) 読書のすゝめ展示第14回～17回の実施のほか，図書館や本に関する展示を実施した。
 (2) 5月11日に，日吉行事企画委員会（HAPP）との共催で,【読書のすゝめ日吉図書館ブックトーク】を開催した。
 (3) 8月2日に学生7名による選書ツアーを紀伊國屋横浜店において実施し,116冊を選定した。
 (4) 通常貸出は前年比2%増であった。年間総合貸出ランキングの上位10はすべて理工系であったが，ミクロ経済学系の貸出数が多いことが特徴的であった。文庫本は太宰治に人気があった。また，日吉ではなく他地区のカウンターで貸し出された資料は約4万冊あり，増加傾向にある。
2. 情報リテラシー教育ならびに「学習相談」の推進
 (1) オリエンテーション，ガイダンス，セミナーは合計227回，受講者数は10,699名であった。学習相談デスクは学期中のオープンとし，3分以上の相談件数は198件，3分以下は203件であり，合計で前年度比76件増となった。
 (2) 6月に学習相談員による「レポートの書き方講座」を2回開催し，61名の参加があった。
 (3) 3月18日，教養研究センター主催の「学びの連携」公開セミナーが清家塾長，長谷山常任理事を迎えて開催され，日吉，理工学，SFCのピアメンターが一同に会した。
 (4) 教養研究センター事業である動画配信「はじめてのアカデミック・スキルズ」の3本のコンテンツ作成に協力した。
3. レファレンス・コレクションの再配置
 統計・年鑑類をタイトル順から主題分類順に並べ直し，約3,000冊を処理した。
4. 学習用ワーキング・コレクションのリフレッシュ
 書架の狭隘化が進む主題部分を対象に，10年間貸出されずかつ塾内に重複のある資料10,928冊を除籍した。また史料的価値が残る585冊は，白楽サテライトライブラリに移管した。
5. 館内工事
 日吉図書館2・3階西閲覧室床カーペット張替，2・3階東・西閲覧室天井塗り替え，グループ学習室窓へ電動式遮光ブラインド設置，椅子117脚のクロス張替，防犯カメラ増設，2・3階窓サッシ補修を行った。
6. その他のトピック
 (1) KBSアニュアルレポートの整理
  本部目録担当の協力を得て，協生館図書室所蔵のアニュアルレポートをKOSMOSで検索可能にした。
 (2) 地下AVホールの運用変更
  10月1日より，学生対象にグループでの利用受付を開始した。
 (3) 研究室図書の蔵書点検
  長年手つかずであった4階研究室図書のインベントリを数年計画で実施することとし，初年度分を行った。

信濃町メディアセンター

1. 利用者層別スタディライフ調査の実施
 主に学習場所に関する利用者ニーズの把握のために，医学部生，看護医療学部生，健康マネジメント研究科生，薬学部生を対象に，アンケートとインタビューによるスタディライフ調査を行った。対応可能な要望は，施設改修，ブックポスト移設などで実現に至っている。
2. 施設改修
 (1) 昨年度に地階の改装で設計・施工したセミナー室，グループ学習室間の音漏れが激しかったため，仕切り壁にあった二つのドアを壁に改修した。また，セミナー室，グループ学習室,通路部分の壁に吸音パネルを装着し，コンクリート壁の広い空間で起きた音の反響を抑えた。
  セミナー室の開設により，メディアセンター主催の「電子リソース活用講座」は前年度に比べて開催回数12回から26回,参加人数120名から222名へ伸びた。
 (2) 書庫2階～4階の壁際に，安全性を考慮して落下防止バー付き書架を設置し収納冊数を増やした。
 (3) 書庫1階～4階の窓際テーブル席の椅子64脚

を新調した。信濃町 ITC の協力を得て，1 階と 3 階窓際に無線 LAN（keiomobile2）を整備した。

3. 利用者教育の再編

医学部カリキュラム変更に伴い，情報リテラシー教育を再編した。3 年生対象に基礎編（衛生学・公衆衛生学「医学統計・医療情報」授業中のコマ）を，4 年生対象に臨床編（「診断学実習」授業中のコマ）を担当することとなった。

4. 保存資料の見直し

電子的に入手可能な国内大学紀要類の受入れ中止，製本バックナンバーの除籍を実施した（541 冊）。また，利用の極めて少ない韓国語，ロシア語雑誌の製本バックナンバーを除籍した（計 890 冊）。

5. 広報・リエゾン関連

（1）Twitter による広報を開始した。

（2）研究室とメディアセンター間の情報共有に役立てるために 7 年ぶりに図書委員会を再開した（年 1 回開催）。

（3）ホームページに医学部シラバス指定の教科書リストを公開した。

6. KOMPAS 拡充

間接経費戦略的調整費「若手研究者の情報発信ウェブサイト KOMPAS の拡充」により，KOMPAS トップページの改訂，新連載「慶應発サイエンス」の開始，イラスト挿入，スマートフォン対応専用画面の公開，健康情報ひろばのパソコンリプレース等を実施した。

理工学メディアセンター

1. 学習環境の整備と評価

（1）創想館地階自習室の日曜開室試行

授業期間中の毎週日曜日 10：00～18：00 に理工学部所属者を対象に日曜日の開室を 24 回実施。計 623 名が利用した。また椅子の入れ替えを行い，長時間の学習に相応しい環境を作った。

（2）学習環境リノベーションに関するアンケートを 10 月～1 月に実施し，館内の環境整備と見直しを行った。結果より，プロジェクターの館内貸出を開始した。

（3）老朽化した館内監視システムをリニューアルしカメラも増設した。日常的には，試験期間に巡回を行うなど館内での安全確保に努めている。全スタッフを対象とした非常口確認や地震発生時の行動フローの見直しなどを行った。

2. 数理科学科図書室の KOSMOS 統合

（1）貸出規則を理工学 MC と同一に変更し，貸出データを移行後，2013 年度の本稼働に向けて KOSMOS での閲覧業務を試行した。安定稼働に向けてシステムと運用の調整を行っている。

（2）KOSMOS 統合に向けてのデータ整備（図書・雑誌の所蔵データの移行，発注・購読管理データの作成など）を行った。KOSMOS に目録データのない 23,600 冊について，メディアセンター本部での遡及準備を開始した。

3. S-Circle の活動

未来先導基金の助成を受け，19 名の学生により 305 件の相談業務を行った。また，企画展示，サイエンスカフェ，館内見学ツアーガイドなど，昨年度に引き続きさまざまな場面で活躍した。特記事項としては教養研究センター主催の「学びの連携」公開セミナーに発表者として参加し，日吉・SFC のピアメンターと交流を深めた。（3/18）

4. 新川崎連携スクエアと理工学 MC との連携サービス開始

塾内図書の返却，理工学 MC 所蔵資料の貸出，文献複写の受け取り窓口を新川崎タウンキャンパスの協力のもと設置し，11 月より理工学部所属の研究室を対象にサービスを開始した。（貸出：12 冊，返却：84 冊，複写：2 件）

5. その他

（1）2014 年春刊行予定の『理工学部創立 75 年史』編纂委員会の事務局として，第 2 章までの編集・原稿作成に協力すると共に，理工学部に関係のある写真類の整理とデジタル化を行った。また，メディアセンター本部の協力により理工学部の歴史的な資料を電子化し，リポジトリ Σ Star に搭載した。

湘南藤沢メディアセンター

1. 施設・設備の更新

メディアセンター（M 館）1 階クリエイティブルームを改修し，ラウンジに変更した。室内にあった映像編集用 PC は ITC がリプレースの上，1 階オープンエリア南側に設置した。

また，2・3 階のカーペットの張り替え，一部の閲覧用椅子の交換を行った。

メディアセンター（M 館）および看護医療学図書室の退館ゲートを更新した。

2. Webを使った情報発信

メディアセンター（M館）のWebサイトを全面的に見直し，日本語版，英語版ともリニューアルした。デザインはメディアセンター・ポータルサイトや日吉メディアセンターとの共通化を意識した。

3. 新しいサービス・企画

昨年度試行したライティングコンサルタント制度の本格運用を開始した。名称は実態に合わせライティング＆リサーチコンサルタント（略称WRC）とした。3月には日吉の教養研究センター主催「学びの連携」プロジェクト公開セミナーに日吉メディアセンターの学習相談，理工学メディアセンターのS-Circleとともに参加し，活動紹介や意見交換を行い，連携を深めた。

塾生選書ツアーを初めて実施，年度内に2回実施した。これは学生が書店に出向き，店頭でメディアセンターの蔵書としたい図書を選定するものである。ツアー実施後には，選定された図書の展示も行った。

昨年度に開始したメディアセンターフレンズの企画として，MMLS（マルチメディア・マルチリンガル・スペース）を利用した研究会の展示を初めて実施，年度内に2回実施した。研究会の活動を展示で紹介したほか，MMLS内での研究会の公開授業，講演会の開催等も行った。

湘南藤沢高等部生徒への貸出サービスを，これまでの中・高等部図書室経由から直接来館による貸出に変更した。

4. マルチメディア環境の充実

館内利用機材として大型ペンタブレットの利用サービスを始めた。また，高性能ビデオカメラやステディカム（カメラの揺れを防止する器具）の貸出を開始した。

キャンパスの管財担当と協力し，夏期休業期間中に大教室2室，春期休業期間中に一般教室3室と看護医療学部大会議室のAV機器設備を更新した。

薬学メディアセンター

1. 利用環境整備

前年度の計画に従って，館内レイアウト変更工事を実施した。また，利用者の要望を取り入れた環境の整備や，資料へのアクセスの改善を行った。

- 新着学術雑誌書架を削減し，空いたスペースに参考図書書架と新着図書展示棚を移設した。
- 参考図書書架の跡に，閲覧席16席を増設した。
- 新着図書展示棚の跡に，就職活動関連資料の配架スペースを拡げた。
- 新聞コーナーの変形スツール2席を4席のテーブルに交換した。
- 隣席との仕切りがなかった閲覧席88席に，置き型の簡易パーティションを設置した。
- 教科書の配架場所をカウンター内（出納式）から開架書架に変更した。
- PCエリア設置機器が芝共立ITCによってリプレースされ，キャンパス内のマルチメディア教室と同じ環境になった。

入口エリアが新着雑誌用の高書架から参考図書用の低書架に変わって明るい雰囲気となったことを活かし，新着図書展示棚の移設と各種利用案内等配布用パンフレットスタンドの新調を行い，単なる通路でしかなかった場所を蔵書に導くサービスポイントの1つに転化することができた。

閲覧席の増設とパーティションの設置は学生には好評で，混雑する試験期にも閲覧スペースが効率的に使われるようになった。

2. 蔵書活用支援

Webガイド作成支援ツールLibGuidesを利用した利用案内コンテンツの作成に着手した。

新着図書紹介ツール「ブクログ」（http://booklog.jp/users/keioyaku）の各図書レビュー欄へのKOSMOS（蔵書検索システム）所蔵一覧画面リンク表示を開始した。

薬学部授業の教科書・指定書情報をKOSMOSのタグに入力し，一括検索ができるようにした。

薬学メディアセンターWebサイトの利用を促進するため，薬学部のWebサイトのトップページにリンクを貼った。

3. 蔵書整理

館内レイアウト変更の一環として参考図書コーナーの刷新を図り，書架数の削減に合わせて約3割の参考図書を3階のコーナーから4階書庫へ移動するとともに，新規購入を積極的に行った。

重複図書廃棄基準により選別した重複図書1,260冊の除籍作業を行った。

共立薬科・慶應義塾合併後の目録システム上の和雑誌の書誌・所蔵データの整備が終了した。引き続き洋雑誌の整備に着手した。

4. 塾外活動

- 日本薬学図書館協議会関東地区2012-2013年度協力館就任
- 〃　関東地区研究会世話館就任（任期未定）